

果樹の味方・マメコバチを守ります！ お湯に漬けて寄生ダニを退治



マメコバチ成虫
ツツハナコナダニに取り付かれ
身動きがとれない状態



巣筒内で増殖したツツハナコナダニ

概要 Abstract

マメコバチ前蛹期または成虫期に巣筒を浸漬処理することにより、ハチへの影響を抑えながらツツハナコナダニに対し高い効果が期待できる。

成果 Results

【1. マメコバチの生育ステージ】

7月上旬～7月15日は、ほとんどの個体が熱に強い前蛹の状態であった。9月中旬以降は全ての個体が休眠成虫になった。



7月上旬（まゆ形成直後）～7月15日は大半が前蛹！

9月中旬以降は全てが休眠成虫！

【2. 前蛹期における浸漬処理】

熱に強い前蛹期の7月上旬～7月15日頃に、巣筒を44℃・2時間浸漬することで、マメコバチに影響なくツツハナコナダニを防除できた。ダニは熱により死亡すると考えられた。

【前蛹期】44℃・2時間浸漬

7月上旬（まゆ形成直後）～7月15日



* 気温が高い時期のため水温管理に工夫を要するが、24℃・72時間浸漬も可能。その場合、処理後の冷却は不要。



浸漬処理
動画
(YouTube)

【3. 休眠成虫期における浸漬処理】

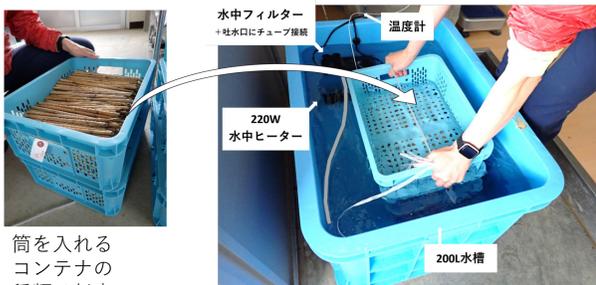
熱に弱い休眠成虫期（9月下旬～10月下旬）には、低温長時間の浸漬により防除が可能であった。ダニは過湿による生息環境の悪化で死亡すると考えられた。

【休眠成虫期】24～26℃・72時間浸漬

9月下旬～10月下旬

24～26℃の範囲内で、できるだけ低く維持

- ①処理槽を準備し、水温の推移を事前に確認*（温湯消毒機も利用可）
- ②設定温度になったら72時間浸漬



【資材の例】 同様の機能であれば別の資材も使用可能

■水槽：「スーパーボックス200」（岐阜プラスチック工業、880×640×515mm）

■水中ヒーター：「NEWセーフカバーヒートナビ」（ジェックス、220W）

■水中フィルター：「イーロカ」（ジェックス、PF-701）＋ポリエチレンチューブ

■温度計：「おんどとりTR42A」（T&D）

* 水中フィルターは水を循環させ水温ムラを抑制する目的で使用するため、濾過材は不要。

* 水温は24～26℃の範囲内で、できるだけ低く維持。

普及 Dissemination

1. 本成果はマメコバチの巣筒に寄生するツツハナコナダニの防除に活用する。
2. 本成果をまとめたマニュアルを道総研HP上で公開する。
3. 処理を行う時期、温度および時間を遵守する。44℃・2時間の浸漬処理は精密な温度管理が必要なため、設定温度を安定して維持できる温湯消毒機等を用いる。
4. 処理翌年の営巣率に関する調査事例が少ないため、導入初期は少量の巣筒から試験的に処理を行う。



- ・巣筒を破壊せずにツツハナコナダニ防除が可能で、マメコバチの個体群を維持できる！
- ・農作業の都合に合わせて2時期から選択できる！

【4. 処理後の管理～すみやかな乾燥が重要～】

処理後の筒が長期間湿った状態にあると、マメコバチが死亡する恐れがあるため、すみやかに乾燥させる必要がある。

* 直射日光は避ける



束のままは乾燥が遅い

バラにして、適宜かき混ぜる。ムシロなどに広げると、なおよい

適宜かき混ぜ、扇風機をあてるのも有効

【5. 本技術のポイント】

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 病害虫グループ
0123-89-2291
central-agri@hro.or.jp



マニュアル
ダウンロード